

第 10 回 熊本市市民公益活動支援基金運営委員会会議録概要（案）

- 1 開催日時：平成 26 年 3 月 25 日（火） 14 時 00 分～18 時 30 分
- 2 開催場所：熊本市総合保健福祉センター（ウェルパルクまもと）1 階 大会議室
- 3 出席者：市民公益活動支援基金運営委員会
（委員）
 - ・出席者： 明石 照久 委員長（熊本県立大学 総合管理学部 教授）
木下 真理子 委員（NPO 法人ケアサービスくまもと
サンアンドムーン 理事長）
水野 直樹 委員（地域づくりアドバイザー）
宮本 チサエ 委員（公募委員）
田上 美智子 委員（熊本市企画振興局次長）
 - ・欠席者： 前田 芳男 副委員長（有限会社 トトハウス 代表取締役）
中原 裕治 委員（熊本市財政局次長）
- 4 配布資料：
 - ・資料 1 平成 26 年度 助成事業公開プレゼンテーション（次第）
 - ・資料 2 分野指定助成事業 プレゼンテーション発表団体一覧
 - ・資料 3 平成 26 年度 助成事業審査会資料
 - ・資料 4 助成事業審査基準 選定方法
- 5 プレゼンテーション趣旨説明
 - ・事務局から、審査手順についての説明が行われた。
- 6 プレゼンテーション（持ち時間 8 分、質疑応答 5 分の計 13 分）
 - (1) 保健・医療・福祉の分野
 - 1) NPO 法人熊本わくわく体操ボランティア協会
【事業名】：わくわく体操を実施して地域の健康づくり・活性化を図る事業
<質疑応答>
 - ・体操はどこで学習されたのか。また、介護予防サポーター養成講座は、受けたことはあるか。（宮本委員）→日本フォークダンス連盟に所属し、その資格をもとに活動している。順天堂大学の先生たちの講習をもとに「わくわく体操」を独自に考案した。
 - ・校区の中でリーダーが育ち、そのリーダーを中心に活動が活発になることをどう思うか。（水野委員）→はい、まさしくそう思う。地域の中で定期的に活動を続けることで、活動が広がると思う。
 - ・体操を見たいが、どこで見られるか。（木下委員）→第 1 金曜日の午後に、このウェルパルクまもとで行っている。
 - ・各区役所を拠点に各校区単位で健康まちづくりを行っているが、その団体との連携は行っているのか。また、コミセンや地域公民館の会場使用料の減免はないのか。（田上委員）→全く連携は行っていない。また、会場使用料等の減免もない。この助成金を頂き、会場費や講師の謝金に当てている。
 - ・助成が切れた場合の対応は、どのように考えているのか。将来の展望を聞きたい。

(明石委員長)→助成が切れた時は、無償のボランティアで活動することとなる。
会員の会費を使いながら運営することとなる。

2) くまもと歯っぴーかむカムひごまる協議会

【事業名】：高齢者にもベロタッチ

～口腔機能を維持して誤嚥と認知機能の低下を防ぐ～

<質疑応答>

- ・高齢の方で食事の時に食事が喉を通りにくいのは、薬の影響か。(宮本委員)→はい。薬の副作用の部分が大きい。ディサービスでは、ご飯を食べる前に唾液腺を刺激させて食べさせる予防の部分が取り組まれる。口腔ケアを行うことで、唾液がでて、インフルエンザの予防につながる。また、ご飯を食べた後、ベロを刺激することで、唾液を促進させ、舌の動きが良くなり、舌の飲み込みがし易くなる。
- ・平成 26 年度の事業計画書の中で、説明書の研修会を 2 回開催するとあるが、これは、地域で活動を広げる方々を養成する為の講座と言うような捉え方でいいか。(水野委員)→地域の皆さんが進んで行って頂く事が必要であることから、普及するように地域の方々に伝える仕組みづくりを今年度は行う。2 回開催するのは、高齢者を支援する専門家向けと地域の人たち向けの講座を 2 回行う。
- ・昨年から興味がある。今年度は、研修会等に参加したい。(木下委員)→高齢者の方にも効果的と思うので、宜しく願います。
- ・昨年度は子ども向けを作られ、今年度は、その改定のように感じる。事業費の積算(見積もり)を確認したい。また、有償で配布か、無償で配布かを聞きたい。(田上委員)→昨年度の子ども向けのものとは、機能の部分で全く違う。今年度は、高齢者におけるベロタッチの効果について作りたい。今年度は、ベロタッチを普及することが大切であることから、無償で考えている。しかし、それが浸透する過程の中で、次年度以降の増刷するものについては、有償化にしたいと思う。

3) NPO 法人成年後見安心サポートネット熊本

【事業名】：成年後見無料相談事業ならびに広報啓発事業

<質疑応答>

- ・開催日が木曜と月曜になっているが、土曜と日曜はできないのか。来年度ではなく、1 年後と考えると無理か。(宮本委員)→会場を取るのが難しく空いていないことから、土曜、日曜は厳しい。しかし、勉強会は、土曜、日曜に行っており、要望があれば、通常の日に行っている相談会と振り替えて行うことを考える。
- ・相談される方は、年間どのくらいいるのか。(水野委員)→月 1 回行っており、1 回に 5、6 名から 10 名くらい。年間で 100 名程になる。地域包括センターや弁護士、司法書士も相談会を行っており、分散される。
- ・会員が 70 名位いるが、その方の職種はどういうものか。(田上委員)→現役退職者が多く、専門家の方で、弁護士、行政書士、社会福祉士、看護師と後は、一般の人がほとんど。
- ・無料相談会の後の後見人の指定などの要請は、有料で行われるのか。(田上委員)→後見人の支援や申請書類のことは、複雑になることから実費を頂いて指導する。
- ・市民後見人のことについて、説明して欲しい。(明石委員長)→一般的に後見人は、

親族の方が、子どもや親御さんの後見人になっている場合が多い。その外は、弁護士、司法書士、社会福祉士が後見人となっており、専属後見人や専門家後見人と言ひ、殆んどがそうだ。市民後見人は、一般の市民の方が後見人になることで、法人の方もなっている。

4) 妊娠・出産・子育て情報ネットワーク うみ・つき

【事業名】：心と体の癒し方・治し方講座

<質疑応答>

- ・素晴らしいと思って聞いていた。活躍して欲しい。(要望)(木下委員)
- ・年齢制限があると思うが、参加される人は限られるのか。(宮本委員)→この講座は、スペシャリストの養成という形で考えている。今までは、お母さんを対象にしてきた。これからは、専門職の方にも広げるという意味で、家族を癒し治すスペシャリストであるお母さんに受けて頂き、その方達がまた他の人に伝えて頂ければと思っている。
- ・骨盤骨折などは、何か特別の治療を行うのか。(宮本委員)→骨盤に巻くコルセットなどがあるが、それを巻いても治らずに、福岡から熊本に連れて来て、坂田さんに診て貰った。その時は、体を揺らして骨盤の開きを調整することをされた。勉強すれば誰でも出来ることから、その技を学ぶために、今回の講座を企画した。
- ・スペシャリストを養成するため、1年間で10名を育てるのか。(田上委員)→各コース10名ずつを考えている。
- ・助成が無くなった後は、どのように進めるのか。(明石委員長)→私たちがイニシアチブを取って、整体や体を癒し治す講座を実施したい。

5) w i t h w o m e n

【事業名】：産後リハビリテーション概念普及による

生活の質(QOL)向上への取り組み

<質疑応答>

- ・このような問題は、言えない、言えるという方々の層というのはかなりいるのか。(水野委員)→かなりいる。二人目が出来ないという悩みを持った方々もいる。医学的なことを簡単に噛み砕いて説明している。講座の後に話をして帰られる方が非常に増えている。
- ・参加される方は若い方が多いのか。((木下委員)→年齢層としては、20代から40代までです。高齢出産の関係で、40代後半、50代前半の方もいる。私が排泄ケア専門員という特殊な資格を持っているので、そういうところでアプローチする予定。
- ・参加者はどのように集めるのか。(田上委員)→チラシの配布やフェイスブックで告知した。今年度は、テレビ、ラジオの出演などをきっかけに広く情報提供を行う。
- ・チラシは医療施設にも設置したか。(田上委員)→はい。出来る範囲で理解のあるアドバイザーを捕まえて、設置した。
- ・子どもが欲しいと言う環境づくりの環境はどのようなものか。(明石委員長)→

出産後の不安の解消として、骨盤底筋体操などを通して、ちょっと恥ずかしいあたりもやさしく柔らかく伝える工夫をしている。

6) 傾聴ボランティアくまもと

【事業名】：傾聴ボランティア養成講座

<質疑応答>

- ・近所に高齢の方がいる。病院へ行かれたか、また、行きたいかどうかのコミュニケーションのとり方が難しい。この様な場合に何かアドバイスを教えて欲しい。(宮本委員)→親身になって相手の話を最後まで否定しないで共感を持って受け入れることが、第一歩である。徐々にコミュニケーションを取って毎日声をかけて、人間関係をつくってはと思う。そして、専門家に結びつけるため、民生委員や包括センターなどに話されたらと思う。
- ・収支計画書の中の会費 50 名×1,000 円とあるのは、受講料の負担と言うことか。また、1 日 5 時間受講するだけで、ボランティアとして活動できるレベルに達するのか。その割合はどのくらいか。(田上委員)→はい。資料代として 1,000 円ずつ頂く計画。その後は、毎月定例会で勉強会や討論会を開き、ボランティアに繋がっている。私たちの講習では、70%位だと思う。社協の養成講座では、95%の方が講習を受けた後も実働に入っている。

(2) 環境保全分野

1) 特定非営利活動法人 九州環境サポートセンター

【事業名】：市民環境活動団体の活動活性化推進事業

<質疑応答>

- ・団体の売りと言うかこんな風に上手くいくだという様な特徴などを紹介して欲しい。(水野委員)→民設民営で事業を行っており、行政とは違って、小回りが利く団体サポートを行っている。そのニーズを蓄積し、ネットワークに繋いでいくことが一番の特徴。私どもの団体の役員構成が九州各県で色んな垣根を越えた活動をしており、この役員構成も一つの特徴。
- ・団体の業務内容は何か。(宮本委員)→九州各地で活動している団体の課題や問題点を克服できるように勉強会やセミナーなどの情報を提供。また、活動資金を確保するため、助成団体を全国から呼び、セミナーの開催や個別面談会を組んでいる。
- ・私たちから見てどういうものが環境問題に入るのか。(木下委員)→環境は分野を超えて関わっている。その垣根を越えてサポートしながら、情報交換や交流をとおした勉強会を持って行くのが私たち団体の仕事。

2) NPO 法人しらさぎ

【事業名】：熊本城石垣除草・清掃ボランティア活動

<質疑応答>

- ・ボランティア活動は、参加することに意義が有るかも知れないが、皆様から見て危険な所もある。参加率が昨年より今年は多くなることを祈る。(木下委員)→皆様方に広報活動をとおして、今年も手広く広げて行くことが使命だと思う。
- ・いつからこの助成を受けているのか。(田上委員)→熊本城の助成は一昨年からで 2 回目だが、西原の植林の下草狩りの時に受けているので、助成は 3 回目。

- ・事業収支計画書の中に、熱中症対策としてお茶やお茶菓子が上がっているが、ボランティアを行う上で必要か。(水野委員)→季節的に熱中症の点で、かなりの飲料水の確保が必要。ボランティアとして無給で参加していることから、安全第一を考え、水分の補給は十分に手当てしたい。
- ・しらさぎの取り組みだが、1つは企業の社会貢献の要素もあるが、それとNPOとしてのボランティア活動と色んな切り口があると思う。今は、そのNPO法人としての活動がメインとなっているのか。(明石委員長)→はい。最初は、企業の奉仕活動の一環としてスタートした。自己満足だけに終わってしまうことから、NPO法人を立ち上げ、幅広い市民あるいは県民の皆様のボランティアによって、継続性や発展性を感じて行っている。

(3) 生涯学習・子どもの健全育成分野

1) 特定非営利活動法人 子ども夢工房

【事業名】：親子でつくる「親守詩（おやもりうた）教室」と

日本の伝統文化にふれる「子ども百人一首教室」

<質疑応答>

- ・親守唄の県大会には2回、百人一首の熊本県大会には10回取り組んでいるのか。(水野委員)→はい。親守唄教室は昨年からはじめた。百人一首に関しては、10年取り組んでいる。
- ・自己資金と協賛金で運営しているのか。(水野委員)→お店をまわり協力して貰った資金で行っている。
- ・百人一首に対して、子どもの時から興味があって楽しくなっていくのではないかと感じた。(木下委員)→はい。
- ・親守唄の熊本県大会、全国大会があるのか。事前に学校を通じて募集するのか。(田上委員)→親守唄の第一回の全国大会が今年の10月に行われた。熊本大会と第一回の全国大会に今年の9月と10月に取り組んだ。募集をかけると学校を通じて申し込みがある。また、百人一首教室に親子で来られ参加される場合やFaxで申込書が送ってくる場合もある。
- ・参加される子どもは何歳位からいるのか。(宮本委員)→百人一首は、保育園、幼稚園の園児から中学3年生まで幅が広く参加。親守唄は、一番下は保育園、幼稚園の園児が親子で作ったものがある。また、大学生の子どもとその母親という応募もある。遠くで暮らす自分の子とお母さんが愛情を交わすそんなイメージの句を出される。
- ・百人一首へ出場者する応募者は、どのようなルートで皆さんへ働きかけるのか。(明石委員長)→百人一首も親守唄も熊本県教育委員会、熊本市教育委員会から後援を頂いているので、学校を通して依頼。

2) 特定非営利活動法人 熊本子ども囲碁普及会

【事業名】：児童育成クラブにおける囲碁普及モデル事業

<質疑応答>

- ・児童育成クラブの児童数が多い中、2名の派遣者で囲碁教室がどのようにして成り立っているのか。(水野委員)→例えば、土曜日などを利用して、希望者を募って行

う。指導としては、技術的なことは原則教えず、マナーとルールや囲碁の楽しみや喜びを教えることで、人数が多くても教えられる。

- ・ 囲碁をしている時の子どもの様子はどうか。(水野委員) → 3つの幼稚園に教えに行っているが、嬉々として楽しくやっている。子どもが伸び伸びと自由に打たせるといふ指導を行っていると子ども達は良いイメージを持っている。大人になってからでも始められる。子どもでも楽しくできる環境づくりをつくって行きたい。
- ・ 将来的にはどのようにして実施して行くのか。(田上委員) → 将来的には、小学校の1年生から3年生までの低学年には、地域の協力も得ながら、一週間に一回ぐらい、月に四回くらい授業に取り入れたい。今、主要な大学では、教養科目の中に囲碁が取り入れられている。富山大学では、昨年、囲碁から学ぶ人間学と言う事で囲碁が授業として始まった。そこでは、地元の経済人が講師となって学生に教えている。

3) NPO法人 熊本どんぐり

【事業名】：生活困窮状態にある人を支援する事業

<質疑応答>

- ・ 子どもをどのようにして集めるのか。場所が中央公民館、大江公民館等ということだが、集める子どもに限られるのではないか。(田上委員) → 保護課、児童相談所、母子会等からの紹介や新聞を見られて来られる。私たちも保護課や教育委員会へ出向きお話をしている。しかし、教育委員会からは、直接学校に行って話をすることは良い返事を頂けなかった。親御さんが、この事業を知っていて、希望する子どもたちが、参加できる環境が整えば理想だ。
- ・ 地域的には、どうしても街中の子どもになってしまうのでは。(田上委員) → 毎週土曜日と木曜日に来る子どもは、母親が車で菊陽から送って来てくれる。自転車で来る子どもですが、クラブに入っている子どもがクラブを休むとレギュラーになれないと言って、来なくなった子どももいる。また、お母さんたち働いているので、送って来れなくなり、止めたケースもある。大体、自転車、車で来ている。
- ・ 子どもたちの定着率というか、何回来て来なくなったとかは分かるか。(田上委員) → 8割。児童相談所から来た2名の女性は、片方は行きたいが片方が行きたくないという事もあるが、ほとんど最後まで来ている。
- ・ 貧困ではないが、裕福でもない家庭の方で、塾にも沢山やれないという方は、いらっしやると思うのだが。(宮本委員) → 生活困窮も含めて表に出ると中々集まらないので、無料で教えて行こうと言う話をしている。
- ・ そこに行きたいがそのように見られてしまう。周りの人も気にされる方もいると思う。何か、ニュアンスを変えられれば良いが。(宮本委員) → 大切なことは何かと言うことを聞きたい。社会自体、周りは何も変わっていない。何を大切にしなければいけないかという事を私は言って欲しい。人が集まらなくて、月1,000円を貰ってやろうと言う取り組みを行ったが、生徒の数は変わらない。問題は、後ろ指を指されるとか、そういう事自体は、地域によって変わると思うが、そんなには無いと思う。

(4) 文化・芸術・国際・スポーツ分野

1) 特定非営利活動法人 武田流流鏑馬保存会

【事業名】：伝統文化の保存及び振興・子どもの健全育成を図る推進事業

<質疑応答>

- ・参加は小学校 5 年生からとなっているが、例えば、私たちでも見せて貰うことは出来るか。(宮本委員)→原則、親が送り迎えをするということになっている。ほとんどの保護者は、其処に居て、活動をよく見ている。大体、5 年生からではないか。希望は、3 年生とか 4 年生でもあるが、もう一年待つて欲しいということで、今は実施している。15 名のうちその様な子どもは半分程度。
- ・私には孫がいるが、一緒に見学させて頂くことは出来るか。(宮本委員)→是非、そういう方がいれば、見学して欲しい。まだ、私たちの啓蒙活動が不足していた。
- ・見学すると小さい小学生の子どもは、興味を持つのではないかと思う。(宮本委員)→ポスターを 200 部くらい作って会員に手渡しているが、なかなか学校には、掲示は難しい。学校の方では許可が下りない。公民館とか、公共の場に掲示をお願いしている。
- ・流鏑馬というのは、大変だと思う。弓道しながら、馬に乗るという事を小学生の時から伝統行事を覚えることは、本当に素晴らしい事。伝承して欲しい。(木下委員)→弓も馬も乗っていない子ども達が、木馬体配(もくばたい)を通して、作法なり動作を約 10 ヶ月か 11 ヶ月掛けて覚えさせ、大会に出場させた。非常に立派に覚えた。
- ・助成金を申請された目的は何か。塾生を増やしたいということか。それは、周知広報を今まで行っていなかったの、そこをやりたいということか。それとも会費を今までの 5,000 円取っていたのを 2,500 円にしたいということか。(田上委員)→弓道及び木馬体配は、私たちの会費のボランティアで行っている。
- ・子どもの参加費は無いのか。(田上委員)→馬に乗るときが、一頭につき 3,000 円掛かる。その費用を頂いている。後は、全くのボランティア。
- ・主に、周知広報に力を入れたいということか。(田上委員)→はい。ポスターなどに使いたい。文化財とは言え、県及び市からの補助金は、市から 5 万円のみ。県の場合、和鞍(わぐら)などを作れば、100 万円の品に対して、50 万円を自分たちが出すことになる。でも、私たちは、行事をやることで精一杯。補助金は無いのが実情。
- ・流鏑馬の場合、馬がすごく大きな要素だと思うが、馬で苦勞される部分はあるか。馬を飼っている農家も減っている。(明石委員長)→今は、農家でなく、ブルーグラスという北熊本の乗馬クラブから借りる。昔の馬に比べて今は、体格が良くて敏感で敏捷。危険が伴うが、訓練しておけば、慣れる。

(5) まちづくり・地域安全分野

1) NPO 法人安心運転支援センター

【事業名】：高齢者・障がい者の生活支援、就労支援事業

<質疑応答>

- ・これが有れば、安全でしょうね。講習を受けなくては行けないのか。(木下委員)→自動車学校には置いていない。以前は、クラッチの場合とオートマチックの時は、選択というものが有ったが、今は、オートマチックがほとんどで、乗車 100% 近くだ。選択できなくなっている。オートマチックだと暴走が起きる。これに慣れるた

めにどの位の時間が掛かるかと言うと、私であれば一時間ぐらいで運転できる。普通のペダル、オートマチック車であれば、例えば、代行の運転手だったら、踵を付けて、右足を踵に付けて、足を開くようにしてするとアクセルになる。この状態で踏むとアクセルゼロになる。ブレーキだけになるので、絶対に暴走が起きない。アクセルからブレーキに移動するのに0.5秒掛かる。高齢者は、0.7秒掛かる。人間は危ないと思ってブレーキを踏むまで、0.2秒掛かる。どんなに運動神経の良い人でも0.2秒+0.5秒で0.7秒掛かる。時速100キロだと13メートルくらい進む。その手前で止まることが出来るということ。そういう意味で対人の事故も出てくる。それから、年間大体7,000人くらいの人が事故を起こしている。加害者と被害者が毎年出ている。このブレーキで踏み間違えの事故はほとんどゼロになる。

- これはどこに行ったらあるのか。(木下委員) → 玉名だけではなく、あらゆるところに取り付け可能なところがある。私たちの所に来て頂ければすぐ出来る。ブログやフェイスブックがあるので、安心運転支援センターと入れて頂ければグーグルで検索。
- 玉名のあの人が発明された時は、凄いと取り上げられ、脚光を浴びた。今まで普及しなかったという事で、今回それを広く知って欲しく、普及させたいと言う事か。これを活用させたいという事だが、何故、今まで普及しなかったのか。そして、今回この助成金を使うことで、どんな工夫をして広げようと思っているのか。(水野委員) → 普及しなかった理由は、私も分からない。自動車メーカーがテレビ・新聞を観てて、実際話しに行った事がある。交通事故関係の役所も行った。色んな団体が話を持って行った。ところが、大企業は自分の所で開発したもの以外は中々受け入れない。センサーを付けたコンピューターで制御された車では限界がある。これは、コンピューターを使わないし、停電もないし、プログラムも無いので、一番安全。普及しないということで、市民向けの研修、それからパネルディスカッションや試乗体験などを行っている。踵を付けて走っているので、疲れない。足を少し開く感じで、高速道路もそのまま走れる。だから、70代の方がこれを付けたら、普通のペダルは付けたくない。口で幾ら言っても理解できない。
- 今乗っている車に付けられるのか。(宮本委員) → はい。
- 費用は幾らかかるか。(宮本委員) → 12万くらい掛かる。玉名市の人は玉名市から5万円補助がでる。10万円を少し超えると大体の方は、取り付けを遠慮される。高齢者の方は付けて欲しい。自動車メーカーが新車に付けて頂くのが一番早い。今のところどの車種でも取り付けが可能。

2) NPO法人 龍田共有ネットワーク

【事業名】：自治協議会とNPOが協働する

校区コミュニティーカレンダーでまちづくり推進

<質疑応答>

- 配布の方法ですが、配るのが大変だったということで、今度は、業者がポストに入れるやり方か。(宮本委員) → はい。以前は、校区で全世帯に配っていた。今度は、自治会に入っていない方にもコミュニティーカレンダーを配布することで、校区の

色んな行事を知って頂ける方が増えればと考えている。配布するに当たっては、ポスティングを一回してみたいと思う。

- ・龍田校区でモデル的に行い、それを市内の 93 の小学校区、それぞれの校区で配るといふことか。それも含んだ金額か。その配布する際には、無償でということか。（水野委員）→はい。補助金を頂いて、無償で提供する。一軒一軒持って行くという事では無いので、各区の自治協に配布をお願いする形になるかもしれない。
- ・今回の助成総額は、結構大きいですが、初期費用ということで、今回助成を貰って、配布まで行う。継続的には、大きな枠組みが出来れば、後は入力作業をするだけで、お金は要らないという事か。（明石委員長）→継続することが大切。今回は、見栄えが良いものということで、カラーを考えている。元々は、モノクロ 2 色で行っていたので、継続可能な自治協議会の予算でも出来るぐらいだと思う。

3) 白山校区社会福祉協議会

【事業名】：「つながろう白山 みんなで元気」健康まちづくりへの取り組み

<質疑応答>

- ・区役所の保健子ども課との連携とか、例えば、コミュニティー支援助成の制度を活用した活動などは、考えられないのか。（田上委員）→区役所の保健子ども課の方と一緒に協力して貰っている。援助までは受けていない。コミュニティーの方も一緒。
- ・対象になると思うので、その制度を利用されても良いと思う。（田上委員）→考えたが、ダブルとかトリプルで出すということが、難しいと思う。まずは、まちづくりという事で、わくわく基金の助成の方を申請した。
- ・たまたま金額が同じだったのかも知れないが、備品購入費という事で万歩計が 11 万円という金額が上がっている。これは、当日、参加者の方にそれを付けて頂き、そして、また、回収して、来年使用することは、出来ないのか。（田上委員）→青少協の餅つき大会であるとか、昨年の白山小祭りでは、大体 600 人程度の方が来ている。その中で、ウォーキングイベントに参加して頂ける方は、今までの経験から 200 名程度ではないかと思う。万歩計は使いまわしにすることを検討する。
- ・校区で活動している団体との繋がりとは、大体出来た。その団体のリーダークラスの人とは、繋がりが出来たが、一般の住民の方には中々浸透していないということで、今回このイベントを企画したということだが、一般の住民の皆さん方にどのようにして働きかけを行い、参加を増やすのか。今まで、全然参加していないような人とか、地域では良くありえる話だが、リーダー層の人達は、何回も出ているが、普通の住民の皆さん方は、忙しいという事でイベントを行っても参加しない人が、結構多いと思う。その中で働きかけの仕方は、どういう風に考えているか。（明石委員長）→白山小学校 PTA が開催している秋祭りと一緒に地域の団体のお祭りを一緒に行うと、まずは、保護者の皆さん向けのチラシが、そのまま学校に配れるということ。あと、ポスターの予算を取っているが、小学校 PTA の秋祭りと地域の団体の祭りを一緒に行うというポスターを作って、地域の方に貼り出して貰ったり、回覧をして貰ったりしたいと思う。一般の方へは、今までどおりに、自治会や同友会などの各種団体に声かけをして貰う事となる。
- ・地域の方は、以前よりは関心は高まっているのか。（明石委員長）→白山校区は、自

治協議会がまだ出来ていない。個性の強いリーダーの方が多いが、この 2 年間活動することによって、笑顔で話を聞ってくれる人間関係が出来た。今年がチャンスかなと思う。

4) NPO 法人日本防災士会・熊本支部

【事業名】：地域市民と NPO とのコラボ DE 安全安心なまちづくりの巡回出前講座
<質疑応答>

- ・今年度も DIG や HUG の講座を色々な所で実施されると思うが、DIG は広まってきたと思う。HUG は、これからだと思うが、実際に行っている方々としては、全く知らない方々が経験され、どんな様子か。(水野委員) → HUG は、年に 4 回ほど行っている。地域の町内会長や自治会長の依頼が有ったら、私たちが防災士を 10 名程用意する。資料関係を作成して、実際現地で実施する。
- ・自治会長や地域の方は、HUG 自体を初めて体験するという方が多いと思うが、その方々の様子や気づきは、如何だったか。(水野委員) → 今まで、支部長と一緒に、色々な箇所で行った。皆さん方が言われるのは、避難所で生活するということ想定することが、こんなに大変な事かと思う。東日本大震災、阪神大震災に遇われた方も、いろんな事例を皆が知ることが大事である。今後何かあった時は、私はこうやって動こうとか、私は、力が有るし若いから運びは自分たちが遣ったり、寒い時は年配の人は、奥の方に入れる。また、地域で子どもが一人になったり、親御さんが亡くなった時は、地域の方が力付けや勇気付けしたりしたら良いなどの話があった。このような勉強を行っておくと、今後、色々な事に関心を持つのではという意見があった。知識があるのと無いのでは、東日本大震災の大川小学校の悲劇でもないが、地震対策は行っていたが、津波対策はしていなかった事から、84 名が無くなったなどの想定外の事がある。小学生も 10 年後には、親になる。小さい子どもから教えていくということをお話せば、後は、自分たちでやっていくと言われ、勇気付けられて、日々回っている。
- ・自治会などに呼ばれ、活動をされているが、その場合の経費の負担はどうされているか。(田上委員) → ボランティア活動で行う。志が有る場合は、気持ちよく頂く。
- ・平成 26 年度にこの助成金を貰って開催する場合、その開催団体の選定はどのようにして選定するのか。(田上委員) → 自治会や危機防災管理課にも相談するが、声が掛かれば、実施していく。ほとんど、自治会長さんが中心となっている。
- ・今回の事業計画の中で、DIG が 2 回、HUG が 4 回など、例えば、10 箇所ぐらいから要請があった場合、4 回はこの助成金を使い、後は、今まで通り自費負担で行うのか。(田上委員) → ボランティアで行う。

7 総評・・・(市民公益活動支援基金運営委員会 明石委員長)

- ・プレゼンテーションでは、8 分という非常に限られた時間の中で、簡潔に要領良くまとめられ、皆様方が取り組みたいことが、伝わってきたと思う。
- ・人と人との繋がりやその繋がっていくためのコミュニケーションを通して、研修や講習と言った様々な取組みを皆様方は行おうとしている。
- ・地域の活動を支えるのは人であり、人しかない。いかにその人材を発掘し、その人を育てるかが重要である。

- ・ そのためには、それぞれの人々の意欲ややる気を引き出すことが大事である。
- ・ 今日の皆さん方の発表を聞いて感じたことは、講師が一方的に情報を与えるだけの座学では、得られるものは殆んど無いと感じた。
- ・ 皆さん方から頂いた提案の内容は、それぞれが自らの気づきによるものであり、そして、それは意欲をたぎらせるきっかけとなる気づきを皆さん方からプレゼンテーションして頂いたと思う。
- ・ 体験して行く中で、気づきと学びを得ると言う、教育の根幹に関わるような非常に大事なことを発表して頂いた。
- ・ 地域では少子高齢化が進み、環境の保全など地域社会が抱える問題は、非常に多くなっている。地域の課題を自分自身の課題として受け止め、それをどう解決して行くかは、人の繋がりや繋がっていくものであり、まさに、ネットワークやコミュニケーションなどによって連携することで、課題解決に向かって行くものである。このことは、役割分担にも関わる。
- ・ ところで、このわくわく基金も今年で 3 回目を数えるが、段々とレベルが上がっている。興味深い発表や取り組みが積み重ねられることで、内容的にも充実してきている。皆様方の努力によって、熊本市が当初考えていたまちづくりの方向へ少しずつ形作られている。
- ・ 地域を取り巻く環境は、厳しく、解決しなければならない課題が山積している。それを解決するには、地域の皆様方自らがやる気を出し、課題が何かを先ずは抽出し、如何にして、取り組むかが出発点だと考えている。今日お聞きしたどの発表も非常に興味深い取り組み。
- ・ これからも、地域の中に根付いた活動を続けて貰いたい。今日の皆様方のプレゼンテーションに対して、心より御礼を申し上げる。

8 閉会（事務局）

- ・ 本日の結果は、4月10日頃までに各団体に送付する。
- ・ 採択された団体は、熊本市ホームページで公表する。
- ・ 今後の事業の参考とするため、アンケート用紙への記入をお願いする。

（終 了）